

# 情報科学専門学校

## 令和4年度学校関係者評価報告書

### 1. 学校関係者評価会実施要領

日時	令和4年7月26日(火) 16:30~17:30		
場所	オンラインミーティング		
参加者	学校関係者評価委員 外部委員	小川名 剛彦	(一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会 常務理事)
		長谷川 長一	(株式会社ラック 新規事業開発部 産学官連携事業室 室長)
		松岡 秀和	(株式会社 日経統合システム 執行役員 ソリューション事業本部長)
		長 夏美	(報科学専門学校 保護者) *ご欠席
	学校関係者評価委員 内部委員	川上 隆	教務部長
		那須 宗夫	教務次長
		武藤 幸一	技監
		小倉 正己	教務課長
		鈴木 英人	業務リーダー(2年制学科・1学年担当)
		大久保 繁	業務リーダー(34年制学科 1学年担当)
		佐藤 真一	業務リーダー(2年制学科・2学年担当)
		滋野 謙太郎	業務リーダー(34年制学科 2学年担当)
		小野寺 栄吉	業務リーダー(34年制学科 34学年担当)
		濱口 和也	学生支援/教育環境担当・記録
資料	・ 令和4年度学校関係者評価会 実施要領		

## 2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

### 2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"><li>・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）</li><li>・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか</li><li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li><li>・学校における職業教育の特色は明確になっているか</li><li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の教育理念は開学以来、明確に示されているが、必ずしも専門分野の特性が明確になっているわけではない。また、教育理念や目的、育成人材像が教職員に十分理解され浸透するには至っていない。</li><li>・保護者や学生に対して教育理念や目的、育成人材像と日々の教育活動を関連付けて説明することが十分に行えているとはいえない。</li><li>・各学科の教育目標や育成人材像は明確にされているものの、個別の授業科目への反映が十分に行き届いているとはいえない。</li></ul>	

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・目的等に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか</li> <li>・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか</li> <li>・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーを取り巻く環境の激変（高卒就職率の劇的低下、IT企業等でのテレワーク促進、コロナ禍による家計の急変等）を踏まえ、学園メールのクラウド化、グループウェアの導入、原則全科目のLMS登録など環境も整いつつあるが、コミュニケーション不足が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面でのコミュニケーションの重要性は非常に感じている。神情協で大学生向けにSE講座を行っているが、対面での授業とオンラインでは学生の反応が大きく異なる。企業ではWebベースで業務は回ってはいるが、使い分けが大事である。</li> <li>・好む好まないは関係なくオンラインを使わざるを得ない状況になっている。今までは対面が基本でオンラインが特別という関係だったが、今は逆転してきている。今の学生はオンラインが当たり前になっていて、教職員の意識との差があるように感じる。オンラインで上手に活動できない学生もいると思うので、学生、教職員それぞれの課題がある。</li> <li>・令和3年度中はほとんどオンラインで業務を行っているが、通常の業務では特に問題なく進められている。相談事については対面で話したいケースが多い。経営幹部も対面で意見交換を行っており、使い分けが大事。同様に学校の授業はオンラインでも問題ないと思うが、対人関係であったり就職相談であったりというところは、対面とのハイブリットが有効なのではないか。</li> </ul>

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか (iCD ( i コンピテンシ ディクショナリ) と関連付けて到達目標を明確にできているか)</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・講義および実習に関するシラバスは作成されているか (学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか)</li> <li>・シラバス (作成されていればコマシラバス) には到達目標が記載されているか (Can-Do を意識した到達目標の明示)</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、実技・実習等) が体系的に位置づけられているか</li> <li>・シラバスあるいは講義要項 (作成されていればコマシラバス) は事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの授業について対面授業と同等以上の学生満足度や教育効果を出すことができているが、学生同士の教えあい学習や就職指導などで課題が出てきている。</li> <li>・定期試験もオンラインで実施するなど大きく環境が変わった。筆記試験ではカメラを常にONさせるなど様々な工夫を行っているが、成績評価については正確かつ公平な評価を行う事が難しい状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が学生である時に「自由にできる」という時間がとても大事だと思う。この時間は大人が関与せず学生の可能性、飛躍する力に任せてほしい。起業家精神の必要性については、「先生から」「会社の上役から」というようなものではないと思う。きっかけや興味を持つ機会を与えることは大事で、そこから先はそれぞれが流れに乗っていくもののように思う。ボランティアではなくビジネスの視点を持つということはとても良い。</li> <li>・「会社入ってからのキャリアパスに対しての研修が充実しているか?」「引かれているルールが魅力的か?」を重視している学生が多いように感じる。企業としては、自分自身で開拓していけるような社員として成長してほしい。「起業家精神の必要性」についても、こうした「自分でチャレンジしていく」という意識付け、経験に結びついていくものと思われる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>・実技・実習が講義と連動するなど、効果的学習に配慮されているか</li><li>・カリキュラムに関し、定期的に外部者（IT企業、情報系業界団体等）の評価や意見を取り入れているか</li><li>・実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則（情報セキュリティ、個人情報の管理・取扱い、著作権、SNSの利用等）が整備され、公表されているか</li><li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li><li>・カリキュラムの作成・見直し等に関し、外部関係者からの評価や意見を取り入れているか</li><li>・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか</li><li>・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li></ul>		
--	--	--

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか（iCD のタスクと関連付けて明確にした到達目標やその目標達成のためのカリキュラムが妥当であるか）</li> <li>・目標とする資格試験への合格率はどうか</li> <li>・卒業生の就職率はどの程度か</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）</li> <li>・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか</li> <li>・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか</li> <li>・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか</li> <li>・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか</li> <li>・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業での情報処理技術者試験対策での学生理解度やモチベーション維持について、周囲の状況がわかりにくいなかでの科目の中では、出題範囲と iCD スキルの対応付けはできている。</li> <li>・オンライン授業の弊害として「教え合い学習」ができない点が挙げられ学生相互でのスキルアップ環境をよりよくすすめていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒採用についてはコロナ禍に入って以降の大きな変化はない。数理モデルを使った最適化というのは興味を持っている。</li> <li>・新卒採用については、コロナ禍以降、地方からの応募は増えている。また、学生がオンラインベースになっているので、就活を積極的に活動している学生とそうでない学生の格差が広がっているように感じる。</li> <li>・IT の分野が多様化しているので、資格も多様化している。LAC 社の社員で多いのは AI とクラウド関連が目立って増えている。G 検定、E 検定、AWS、Azule、GoogleCloud。</li> <li>・2 年制は、まだ 1 年間だけで社会的な情報が掴めていない状況なので、どうしても大学生や 4 年制の学生とは差がついてしまう。コロナ禍で地方の大学からの応募、採用も増えている。</li> <li>・基本情報については、「最低限持っていて欲しい」というスタンスは変わらない。社員教育でも新人には変わらず取得するように指導している。</li> </ul>

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で高校等との連携したキャリア教育・職業教育のとりくみの開催が困難であったため、活動がほぼできていない状況となった。</li> <li>・インターンやコンテストに参加する機会が減少。オンラインでの参加など新たな形でのモチベーションの醸成や興味喚起の方法が確立されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2新卒でマイナスになるということはない。第2新卒となった理由によってはプラスになる場合もある。第2新卒の方が、一度社会に出て「よく考えてから」「見直してから」会社選びをしっかりとっている印象があり、安心して採用できる傾向にある。</li> </ul>

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか。またその大きさは学生数に見合ったものであるか）</li> <li>・カリキュラム上必要となる実習に用いる器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が備わっているか。また必要な数のライセンスが準備されているか。</li> <li>・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。</li> <li>・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品は定期的に点検・更新を行っており、卒業研究等での貸し出し対応等に柔軟に対応できている。しかしながら、担当者が管理しきれない状況も起きている。</li> <li>・インターンシップ・コンテスト報告会などを開催し、学生間での情報共有・交流を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション手段は TEAMS をメインで使っている。外部との連携、連絡も多いのでツールは多様になっており、OVIS や Discord も使っている。在宅勤務が 7 割近いので、物理的な防災訓練はできておらず不安はある。防災マニュアルの共有はできている。</li> <li>・コミュニケーション手段として、チャットは TEAMS がメインだが、オンラインミーティングは Zoom を使っている。顧客ごとに Slack や ChatWork を用いることもある。防災訓練はデータセンターの運営があるので、停電・火災等のシミュレーションなどは定期的に行っている。その時々でコミュニケーション手段が使えるかどうかのチェックは欠かさず行っている。</li> </ul>

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか）</li> <li>・ 履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか</li> <li>・ 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか</li> <li>・ 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか</li> <li>・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・ 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか</li> <li>・ 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか</li> <li>・ 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか</li> <li>・ 学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインでの学校説明などよりわかりやすい説明動画などが不足している。</li> <li>・ Twitter や YouTube などの SNS を通じた情報発信が不足、学生の普段の様子をタイムリーに伝えることが不足している。</li> </ul>	

2-8. 教育の内部質保証システム

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか</li> <li>・専任教員による相互評価など、適切な評価体制を有し、授業評価を行っているか</li> <li>・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか</li> <li>・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか</li> <li>・教職員に対する専門分野（IT 分野及び関連分野）に応じた能力開発のための研修制度ないし機会はあるか。（研修等の効果の評価し、文書により記録しているか）</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか</li> <li>・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩崎学園 7 校で授業アンケートの標準化を進め、その結果を定量的に評価・分析できる体制の構築を進めている。</li> <li>・教員の指導力向上のための研修受講が主に各学年や教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか</li><li>・ 内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか</li><li>・ 内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか</li><li>・ 自己点検・評価結果を公開しているか</li></ul>		
---	--	--

2-9. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。</li> </ul>	

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により学外活動の実施が困難となっているが、ゼミ活動などの個別の案件ではオンラインを利用し地域や企業との連携を継続している。</li> <li>・GIGA スクール構想や小学生プログラミング教室など直接的な活動はできないが、今後に向けたオンラインでの打ち合わせなどを継続している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き新情協の技術委員会と取り組んでいってもらいたい。小学校のプログラミング教育が始まって数年経つが、小学校の先生が子ども達にプログラムを教えることはやはり難しいので、学生が教えるニーズはあるし、学生にとっても「自分が役に立っている」と実感できるという活動はとても良いと思う。</li> <li>・地域社会での IT の学びというケースとしては、スマートシティ開発のプロジェクトで地域・学生と一緒に取り組んでいる事例がある。</li> <li>・入社してきた情報科学の学生は、学生時代に経験した「神奈川県警との取り組み」が自信に繋がり、本人の糧になっているので、こうした経験は大変価値があると思う。</li> </ul>

2-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学修成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、入学を希望する留学生がおらず、留学生の在籍数は0名となっている</li> <li>・意欲ある学生の留学を支援する「G-Leader 留学支援プログラム」を12名が利用。コロナの影響で渡航延できない現状が続いている。</li> </ul>	

以上

次回、R04年度の自己点検・評価に関する学校関係者評価委員会は2023年6月に開催させていただきます。